

「10月特別礼拝&12月イブ礼拝」(2019.11.17)

「わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」(ヨハネ 14:14)



先月20日、野口誠先生をお招きして特別礼拝を捧げた。「聖書の神は全能である」という説教を通し、野口先生ご自身が上掲の御言葉にチャレンジを受け、祈り、叶えられたというその証しを伺った。ある時、教会を訪ねクリスチャンになったが、実はいい加減なクリスチャン生活を送っていた。ところが、ある人生の重大問題が起きた時(それが何かは当日の説教では明かされなかった)、見るとなしに見た週報、そこに記されていたみ言葉が大きく目に飛び込んできた。それが上掲の御言葉である。よう～し、と意を決して祈り始め、このみ言葉に後押しされて、行動し、そして問題に解決が与えられたというのである。また、1958年の日本シリーズにおける西鉄の奇跡の逆転にまつわるご自身の証しなどユーモアを交え、聴く者を夢中にさせた。

この日の営みは、「祈りの家と呼ばれる教会に！」という年度目標を深めようと企画された。各自どう受け止めたであろうか。聖書の神は全能であるが、祈りは自動販売機のようにではなく、その人にとって最善のもので応えられる。この言葉が印象に残った人も多かったのではないか。上掲のみ言葉を主イエス様からの祈りへの招きと受け止め、思いを新たに祈り始めた方がいれば嬉しい限りである。一人ひとりが全能の神の前に小さく<sup>x2</sup>なり、大きく<sup>x2</sup>期待して祈る教会の一枝に成長させていただきたいものである。

今年も早いもので間もなくアドベントに入る。1年で一番伝道にふさわしい時期である。教会では今年もイブ礼拝に素晴らしいゲストを招いている。シャンソン歌手の和賀葉子氏である。横手市生まれで、かまくら館やかつての母校・湯沢商工高校の閉校式でコンサートを開いている方である。チラシを作り、新聞折込をします。かまくらFMでCMを流します。横手市報「みでたんしえ」にも掲載をお願いします。しかし、何といても一人ひとりがこのために祈り、参加し、そして家族や友人・知人をお誘いすることです。是非、主の体なる教会の手とし足として、できる範囲でこの働きを担ってほしいと願います。

